

つきたい力

1. 主体的に学習に取り組む力
2. 他者と協働して問題を解決する力
3. 知識を活用し、表現する力

取組みの概要・ポイント

- ・各教科で情報活用能力について確認し、教科横断的な情報活用能力の向上を意識づける。
- ・生徒が、必要に応じて端末の活用や情報モラルについて考えられる活動を増やす。
- ・評価尺度(ルーブリック)を示し、生徒自身が能動的に課題を解決する道筋を作る。

具体的な取組みの内容

取組み1：教科横断的な情報活用能力の向上

日本教育情報化振興会が示している「情報活用能力を育む授業づくりガイドブック～中学生版～」を元に、東中学校独自の「東中学びチェックシート」を作成。このシートを土台とし、教科横断的な情報活用能力の育成に取り組んでいる。(チェックシートに関しては下記サイトを参照)

2学期までの取組みの結果、授業づくりの基礎として本チェックシートを活用する教科が増えてきている。生徒の中でも、「Aの教科で取り組んだ内容が、Bの教科でも生かせる。」と話す生徒が増えており、一定の成果を上げている。

以下、生徒の振り返り

○資料を集める力

資料はGoogleで検索しても必要な情報があまり出てこないことが多くて困っていましたが、検索キーワードを変えたりして見つけるというところが、力が伸びているなと思いました。

○比較する力

比較する力に関しては、友達の話聞き「どこが違うのか」「どこが同じなのか」「なぜそう思うのか」と色々考えました。そして、自分の考えと比較しながら新しい考えを生み出そうとしたので、この力が伸びました。

○課題を発見する力、まとめる力、発想する力

調べ学習の際、「どのように伝えと相手に伝わりやすいのか」という課題設定、その課題解決のために「何をどのようにまとめるのがいいのか」について考えたり、計画を立てる力がついたと思います。

取組み2：生徒主体のタブレット活用

生徒が主体的にタブレットを活用する環境を整えるために、授業内と授業外でそれぞれ取組みを行った。

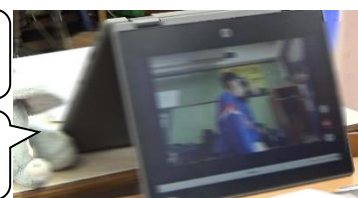
授業内：「プチPBL」を導入し、生徒主体のタブレット活用場面の設定

PBL(Project Based Learning)の考え方を取り入れた「プチPBL」を行い、生徒の主体的な学びを設計、実施する。



他の生徒の作品を鑑賞し、意見を書く。

学習内容をまとめ、動画を作成する。



授業外：生徒主体の情報リテラシー授業、学校情報発信活動の実施

- ・生徒有志のデジタルシティズンシップ学習の推進(スマートコンシェルジュの活動)や、スマコンタイム(生徒による情報モラル学習)の実施
- ・学校公式インスタグラムの運営など
- ・各委員会でタブレットを活用した委員会活動の推進など



スマコンによる情報モラル学習

スマコンによるインスタ更新や終業式の啓発劇



取組みを通しての子どもの変容

- ・教科外でタブレットを活用する機会が増えたため、作成する成果物にかかる時間の短縮と、質の向上につながっている。
- ・スマコンの活動を通して情報モラル学習に取り組むことで、情報モラルに関するアンケートの肯定的意見が9割を超えた。
- ・教科の授業を通して情報活用能力が伸びたという実感を持つ生徒が増えた。(校内独自アンケートの結果より)

東中スマスクサイトに
本校の取組みを
掲載しております。
ぜひご覧ください。

